

わかる授業の実践と評価

福島県組織的理科教育研究グループ

はじめに「わかる授業とは」

れる。
③生徒に自己評価をさせる

識は大部分本邦づけられていない。一

授業の一時間一時間は、教師にとても生徒にとつても二度とくり返しの

(二) カウンセリンマインドの授業

きかない大事な時間である。そう思いながらも、意に反して授業が思いどおりに進まない。それが生徒の学力、學習意欲などによるものとしても、教師の授業に対する反省と工夫の中でのり越えねばならない、という主旨から、

(本語の意図)をふまじか授業である生徒の意識調査をもとに、授業の改善を試みる。(図2)

研究メンバーが、それぞれの立場において研究実践を進めた。そこでまず、「わかる」ためには「わかりたいとする学習意欲」と「わからせるための教材」が準備され、そこに、「わからせるための適切な指導法」が加わり、全

体的に調和を保ちながら授業づくりを行なうことが必要であるという、「わかるための要素を洗い出すことから出

(一) 二 発した。
二 学習意欲を高めるためには
学習成立の要素を求めた授

生徒の多くは、論理的な概念思考が困難である。理科に対する意識を調査し実態ニテ、之を学習意欲と興味に對する

(2) (1) 化学授業の展開：講義は三十分、残りの二十分は生徒の活動とする。

化学実験：独自の実験書を作りで

(3) きるだけ多くの実験をとり入れる。
授業の工夫①授業の最初の一時間
を大切にする。②化学史を授業に入

図1 教科が好きになるための教科書の選択

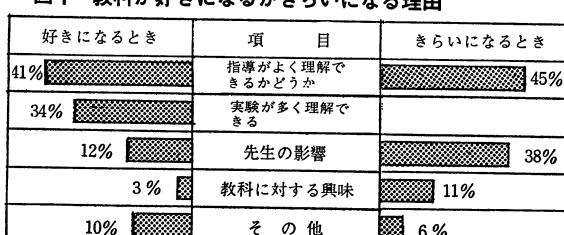


図 2 わかる授業

区分	項目	10 20 30 40 50 %
わ か る 授 業	1 教科書の内容を大切にして、重点、要点を簡潔にまとめ、ゆっくり進む授業	58.6
	2 初歩的、基本的事項から応用へと積み上げて進む授業	19.0
	3 学習内容と関連のある具体例をあげて印象的に説明する授業	15.6
	4 図表、図解等を利用する授業	3.4
	5 最低限必要な事項を基本に進める授業	1.7
	6 生徒のことを見て説明する授業	1.7

(二) 体験的・作業的教材を多量に取り入れた指導―課題研究の授業実践
① テーマに対する教師側の対応② 生徒の自主的活動の尊重③ 施設、設備、器具、器材④ 探究の過程を経験させ、論理的展開をしたいという教師の気持